

脳機能とリハビリテーション研究会 2010 年研修会 プログラム・講義概要

テーマ：症例研究の重要性

1. 症例検討の進め方

10:00 ～ 10:15	症例研究の重要性 沼田 憲治（茨城県立医療大学） 近年、理学療法アプローチは概念的視点から科学的視点へとパラダイムがシフトしている。症例の検討は基礎的な脳研究の集約されたものであることを本研修会で知っていただきたい。
10:15 ～ 11:15	脳損傷例の考察プロセス 1 村山 尊司（千葉県千葉リハビリテーションセンター、千葉大・院） 脳画像による病巣や神経学的検査、神経心理学的検査の結果から脳機能と照合し、患者の運動・行為障害を把握するための方法を症例を通して実践する。
11:20 ～ 12:20	脳損症例の考察プロセス 2 阿部 浩明（広南病院） 理学療法アプローチの考案に脳画像情報をどのように活用していくのか？ 事例を紹介し、実際の活用について述べる。

2. 基礎研究からみえる臨床像

13:15 ～ 13:45	ヒトの臨床的症候と生理学的背景 大塚 裕之（千葉大・院） 脳卒中後の不随意運動は麻痺肢の機能回復と密接に関係する。今回、脳卒中患者の評価に役立つ知識をお伝えしたい。
13:45 ～ 14:15	機能回復の分子生物学的背景 山本 竜也（産総研、筑波大・院） リハビリテーションにはどのような効果があるのだろうか？ 本講演では、脳損傷後の運動機能回復メカニズムに関する仮説を分子レベルの視点から分かり易く概説する。
14:15 ～ 14:45	基底核障害の多様性の背景 佐賀 洋介（玉川大脳科学研・院） 大脳基底核変性疾患や損傷に付随する症状は運動障害だけではない。この背景について、基礎研究から臨床を考える。
14:45 ～ 15:15	精神疾患の生理学的背景 石井 大典（千葉大・院） 感情は脳で作られる。精神疾患からみる臨床と研究と基礎研究の結びつきの重要性について、分かり易く解説する。

3. 症例報告

15:30 ～ 16:10	個人が持つ能力を把握するために ～ジャルゴン失語を呈した一症例に対する多面的評価～ 山本 竜也（産総研、筑波大・院） はっきりと何が言えるのか？言えないのか？その差は何か？など、これまでに様々な評価課題を工夫して立案・実施してきた。本症例が持つ言語能力について共に考えていきたい。
16:10 ～ 16:50	左利き例の脳卒中後の臨床症状 松澤 和洋（千葉県千葉リハビリテーションセンター） 右半球損傷後に失語症を呈した3症例を通し、左利き脳卒中例における高次脳機能障害や予後について脳機能の側性化の観点から検討する。
16:50 ～ 17:30	左側頭葉に限局した外傷性脳内出血後の一例 太田 直樹（千葉県千葉リハビリテーションセンター） 漢字の読解に特異的な障害を呈した左側頭葉損傷例の臨床所見を通して、側頭葉のメカニズムを検討する。